

2023年度 地域子育て支援事業報告

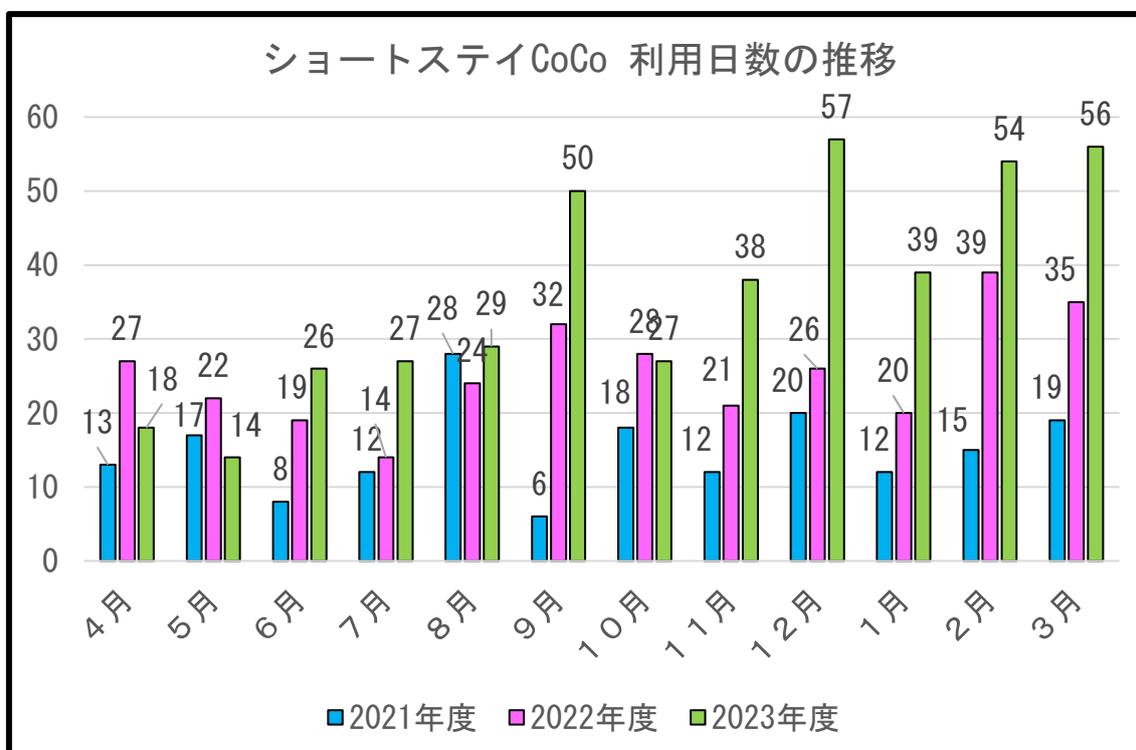
1. はじめに(概況)

本院のB棟において地域の子育て家庭の交流の場となっている「CoCoひろば」を6月より週1回から2回に増やした。町田市からの補助は受けていないため、近隣の相模原市・八王子市の親子の利用も受け入れることができている。また、産前支援として10月からCoCoサロンを開始した。

次年度ショートステイ（地域子育て支援）の拡充に向けて、改修工事を実施。ひろばを2階へ移す準備も同時に開始し、9月にひろば。3月にショートステイをリニューアルオープンした。

ショートステイ事業は3自治体からの受託は変わらずだが、町田市より要支援家庭ショートステイ1名の受託も新たに加わった。また、今年度より地域支援担当の心理職員が配置にされ、さらに地域関係団体とのつながりを広げ、強めることを課題として取り組んだ。

2. ショートステイ事業



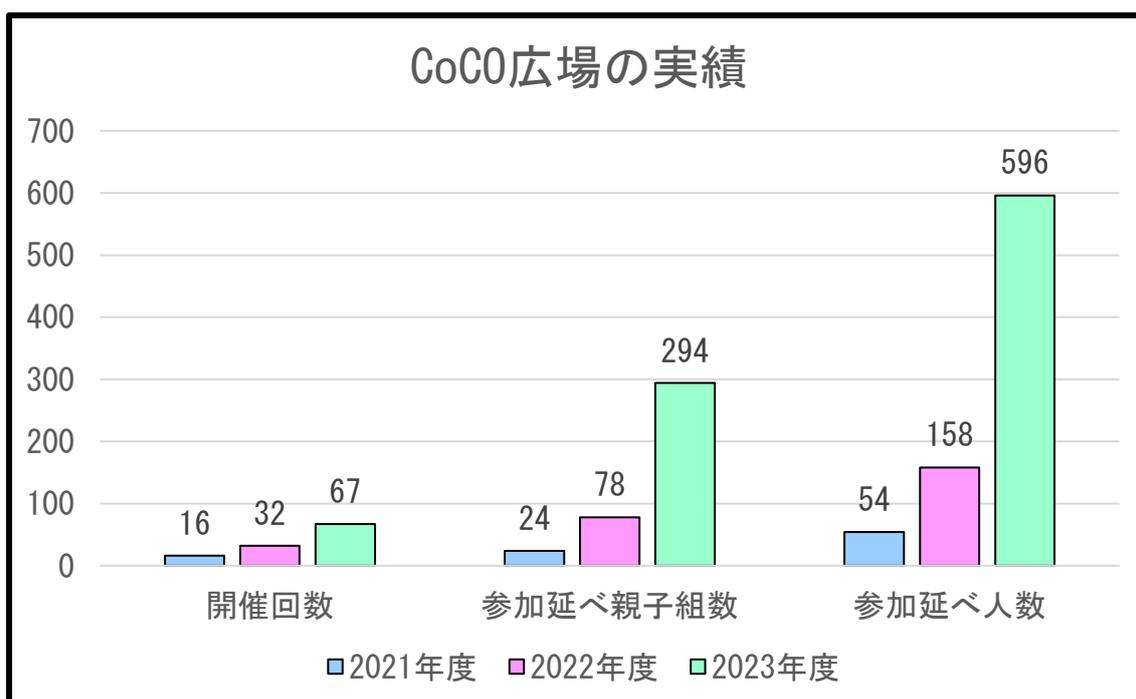
2021年度 180日 ⇒ 2022年度 307日 (前年度比 170.5%)

送迎時には保護者とのコミュニケーションを大切にしながら聞き取りや、利用中の児の様子を丁寧に伝えた。また、連絡帳には利用中の活動や食事の様子、遊び、睡眠など児ができたこと楽しめたことを中心に育児の励みになるようなコメントを記録した。保護者には好評で安心感にもつながった。

慣れない場所で不安が大きい児や、母子分離が難しい児、着替えを嫌がる児など対応に苦慮したケースもあったが、子どもが安心できるように子どもの気持ちを受け止め、模索しながら対応した。ホーム職員が日々試行錯誤し、情報共有しながら統一した関りを行なうことで子ども一人ひとりの安心感が生まれ、笑顔が増えてショートステイを楽しんでもらえるようになった。

地域支援 FSW、心理担当、栄養士と連携し保護者の相談や話を聞き専門的な視点を持ちながらも保護者の気持ちに寄り添い身近に感じてもらえるよう支援を行なった。

3. CoCo 広場（親子支援事業）



今年度よりひろば日誌を作成し、開催日の参加者名や人数、様子の記録を残すようにしたことで、ひろば開催日の担当職員が直近の様子をすぐに把握できるようになった。また、地域担当の心理職員が加わったことにより、新たな視点や取り組みをもつことができ、ひろばの活動が充実した。

ひろばでは保護者同士が顔見知りになり、子育てのやり取りなど、親子の相互交流がみら

れ、地域拠点「ひろば」としての目的の一つが見られ始めている。

今年度より週2回（火、木）の開催に増やし、定着することができた。2階へ引っ越しした際には、利用者に引き続き安心して利用してもらえる環境づくりを、係を中心にホーム全体で考え行なった。引っ越し後は以前よりアットホームな雰囲気ひろばとなり、参加者はリピーター、新規ともに増加した。年間合計参加者数は昨年の2倍以上になっている。

ひろば利用からショートステイ利用につながったケースがあった。また、一人でひろばなどの資源活用に踏み込めないでいる親子を地域の保健師が同行してひろばの見学を実施し、その後保健師の付き添いなくひろばに参加できるようになったケースもあった。

期間限定でのスヌーズレンルームの開催、秋の遠足実施の他、クリスマス会には8組の親子が参加した。会ではハンドベル演奏やブラックライトパネルシアターを行ない、参加者からは好評だった。また、乳児院の子どもたちにも演奏やシアターを楽しんでもらう機会を作ることができ、ひろばの活動について院内周知にもつながった。

初めての試みで事故予防講座を開催し、5組の親子が参加した。訓練用人形を用いて実際に児が誤飲した際の対応を体験してもらうことができた。

CoCo マタニティサロン

産前の事業取り組みとしてマタニティサロンの実施を計画し、10月から開始した。ポスターを掲示、ホームページ掲載、近隣の産婦人科に案内を置かせてもらうなどして周知を図った。

毎月第三金曜日に開催とし、10月のオープンの際は“マタニティピラティス”の講師を招いた講座を企画。その後もひろば見学会、茶話会・クリスマスイベント（リース製作）・栄養士、保健師の相談会を企画した。

今年度の利用が無かった為活動の成果は得られなかった。周知方法の問題、利用者側の乳児院という場所への抵抗感などが考えられる。今年度の課題を整理し、次年度以降、CoCoひろばと連携し取り組んでいく。

4. 運営

ショートステイ事業の独立と地域子育て支援の拡充に伴いB棟改修について理事会に提出、承認された2022年9月)。B棟の整理(不用品の処分)、使用目的別に部屋割りの見直しを行ない、B棟1階で実施していた「ひろば」を2階へ移した。12月には1階をショートステイ居室にするための改装工事を行なうことができ2月に完成した。家具の配置、導線、設備、カーテンのデザインなど、様々な要望を取り入れ、ショートステイの安心・安全のために、ホーム職員の思いがこもった居室になった。利用状況に応じて都度職員体制を調整し、利用児が安全・安心に過ごせるようにした。

ショートステイ担当職員に第2の所属ホームを割り当て、利用状況に応じて他ホームへ入室し養育を行なった。12月からAホームの勤務体制が職員の諸事情により厳しくなった

ことから協力体制をとり連携して乗り越えることができた。

5. 対外業務について

<町田市>

- ネットワーク会議への出席（年3回）
- 堺地域子育て連絡会（年2回）
- 町田社会福祉協議会「ふくし〇ごと相談会」の参加
- 地域の子育てひろば（民間）との連携・交流
 - ・ショートステイの説明会を実施
- 各機関見学対応
 - ・子ども家庭支援センター

<八王子市>

- ショートステイ・トワイライトステイ連絡会への出席（年4回）
- 八王子市子ども家庭支援センターとの連絡会
- ショートステイ登録、利用、変更手続き

<世田谷区>

- 定期連絡会
 - ・世田谷区児童相談所支援課との連絡会（下記を含め2回）
 - ・世田谷区各子ども家庭支援センターを含めた情報交換会（1回）
 - ・見学対応

<その他>

- ・子育てひろばでの事故予防講習講師
- ・CoCoサロン（マタニティーサロン）の実施（10月～月1回）
- ・保健予防課へマタニティー講座見学
- ・フォスタリングチェンジプログラムファシリテーター（9月～12月）
- ・家庭訪問、電話相談、SS送迎時の子育て相談

5. 2024年度に向けて

ショートステイの居室が独立したことで受け入れ体制が整った。今後はさらに質を高め、安心安全に利用していただくことを大前提として、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を目指して地域子育て支援の取組みをより充実させていく。

乳児のショートステイ未実施の近隣自治体からの受託拡大に取り組む。

以上